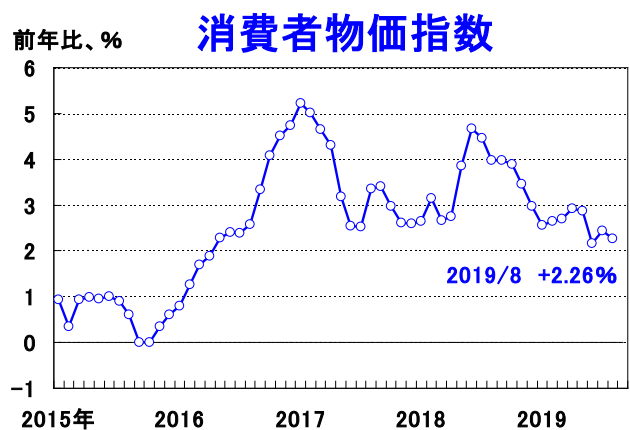
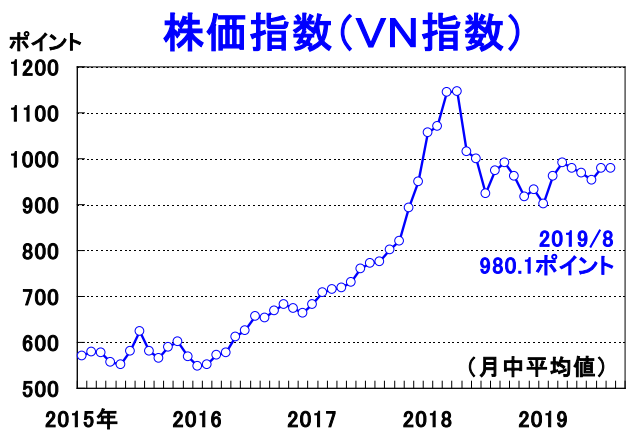
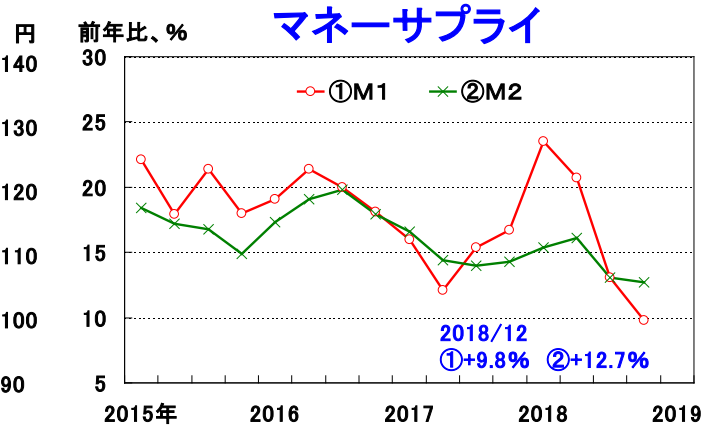
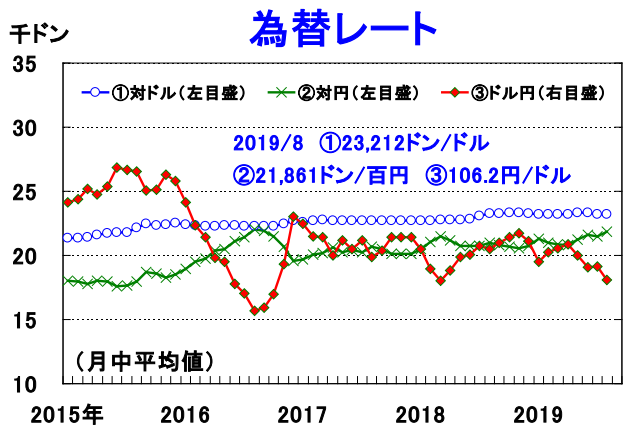
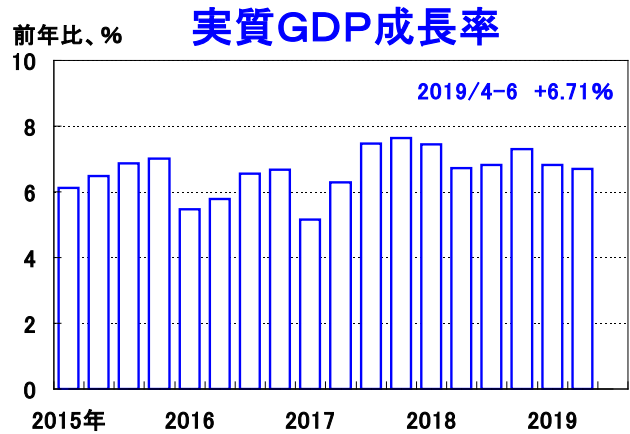
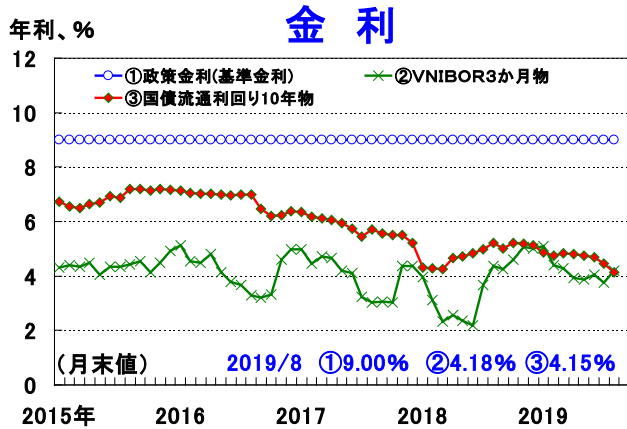


# グラフで見るベトナム経済 2019年9月号(No. 116)

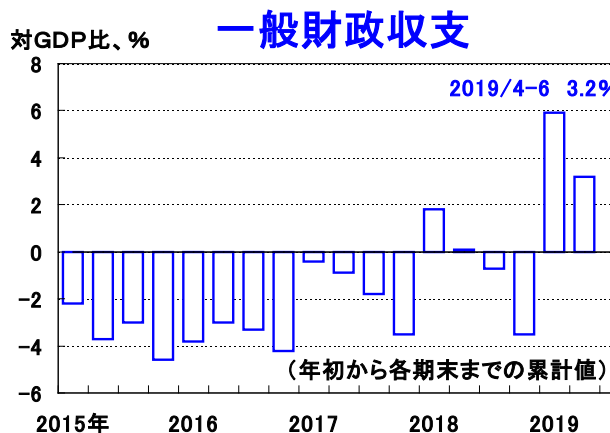
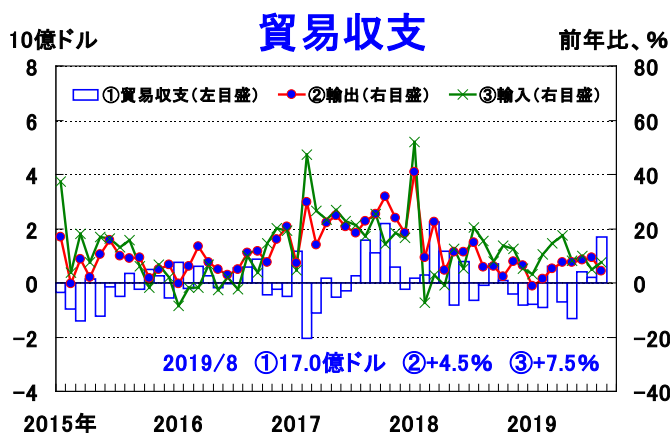
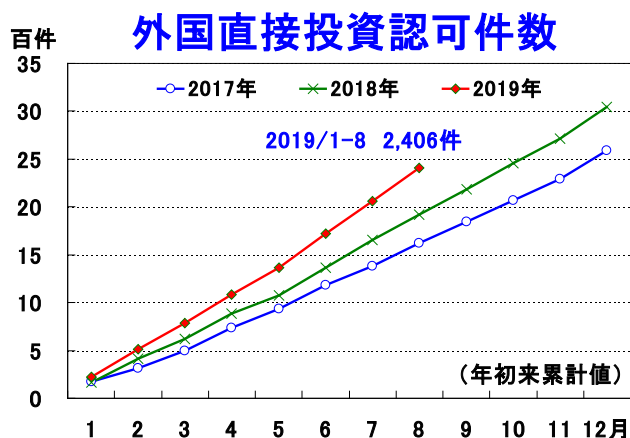
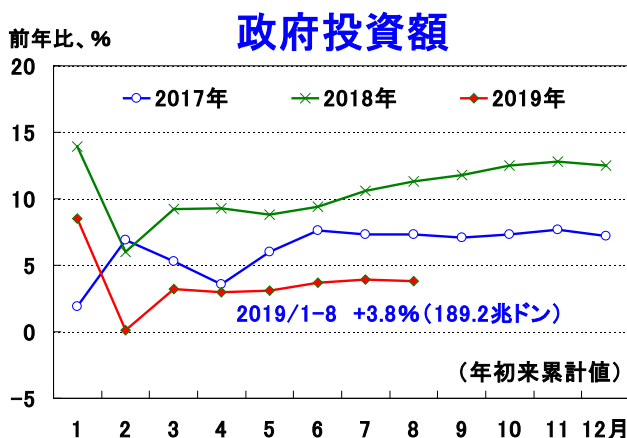
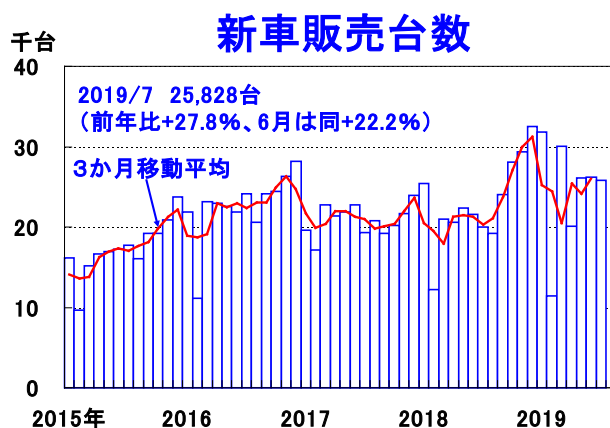
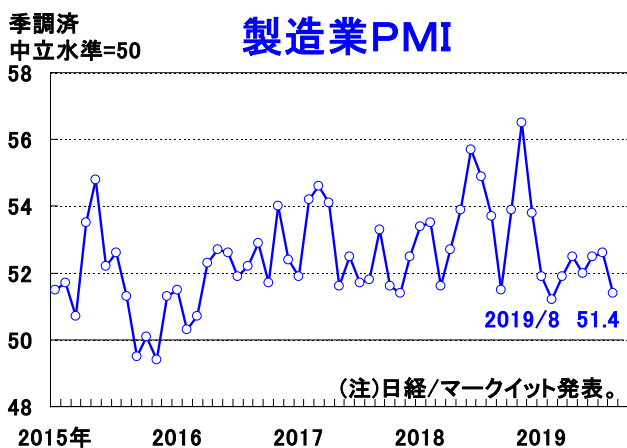
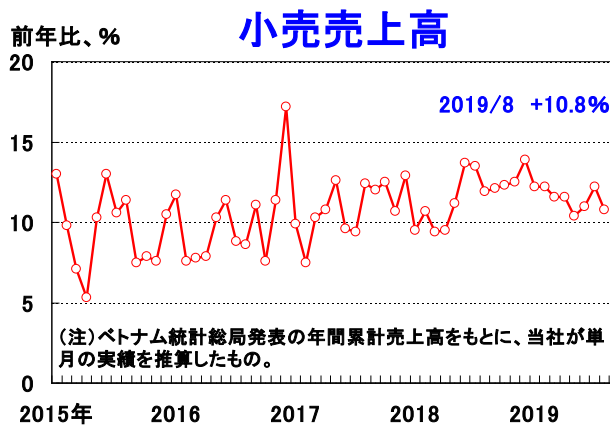
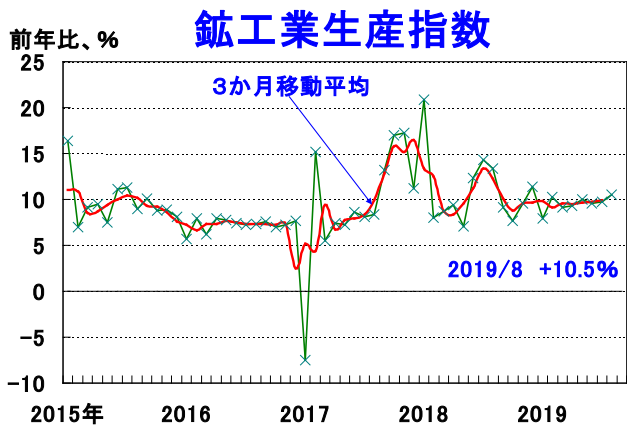
ベトナムの景気は緩やかに回復している。内需をみると、7月の新車販売台数は前年比+27.8%(前月は同+22.2%)と4か月ぶりの高い伸びとなり、また8月の小売売上高も同+10.8%(前月は同+12.2%)と16か月連続で2桁増を維持している。外需に関しても、足元では海外からの直接投資額(8月は前年比+209.7%)が大幅に拡大した。こうした中、8月の鉱工業生産は同+10.5%(前月は同+9.7%)と3か月ぶりに2桁増となった。業種別にみると、家具製品や化学製品が加速し、またコンピューター、電子・光学製品も伸びを高めた。



【今月のトピック:遡及改訂でGDPは大幅に拡大へ】ベトナム政府統計局は、2011~2017年のGDP統計を遡及改訂する。今回の改訂は、統計作成の手法を国際標準に近づけることを狙いとしている。既存の統計に関しては、急成長する製造業や建設業等の民間企業の実態が十分反映されていないという問題点があった。改訂対象となる期間のGDPは、平均で約25%増加する見込みである。今回の改訂により、公的債務のGDP比率が低下する。このため、政府のインフラ投資は増加しやすくなる。一方、外国政府からのODA(政府開発援助)は受けにくくなることが予想される。

(出所) ベトナム国家銀行 (SBV)、ベトナム統計総局 (GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。